

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（令和5年4月1日現在）

団体名	一般財団法人三保松原保全研究所		
所在地	静岡市清水区折戸3丁目20番1号	設立年月日	令和元年6月3日
代表者	代表理事 溝口 康博	県所管課	経済産業部森林整備課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律		
団体の沿革	令和元年6月 設立 令和2年4月 静岡市清水区三保から現所在地へ移転		
運営する施設	-		
団体ホームページ	https://miho-lab.or.jp/		

出資者	出資額（千円）	比率（%）
静岡県	3,000	20.0
静岡市	3,000	20.0
はごろもフーズ(株)	3,000	20.0
鈴與(株)	3,000	20.0
(株)清水銀行	3,000	20.0
基本財産（資本金）計	15,000	100.0

役職員の状況（人）			
常勤役員	1	常勤職員	3
うち県OB	-	うち県OB	-
うち県派遣	-	うち県派遣	1
非常勤役員	6	非常勤職員	1
役員計	7	職員計	4

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

三保松原をはじめとする海岸保安林、森林、都市公園林、街路樹、名木等緑化樹木の樹勢回復技術及び緑化樹木の保全活動を積極的に推進する。そのため、公民各々の主体が相互に信頼し、話し合い、それぞれの考え、役割、活動を尊重し、最新技術を取り入れながら、知見を高め、蓄積し、水平的協働事業を継続的に実施する。これらの活動、事業を通じて豊かな自然環境がもたらす都市環境への好循環を科学し、環境教育を通して人々の心身の健全化と地域社会へ貢献することを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

世界文化遺産「富士山」の構成資産である「三保松原」の松、松原の風景をしっかりと守り、次の世代に引き継いでいくため、三保において積み重ねられてきた伝統を受け継ぎ、様々な形で行われている保全活動の効果を高めるための専門的・技術的なサポートを行う。さらに日本全国の同様の悩みを持つ地域に、団体が蓄積していく知見や活動を広げていく。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	県は平成26年度に、「三保松原の松林保全技術会議」から提言された「三保松原の松林保全に向けた提言書」に基づき、「松林を守り、育て活かす仕組みづくり」や「マツの生育環境の改善」、「マツ材線虫病の早期微害化」などに県と静岡市が連携して平成27年度から取り組んできた。この結果、マツ材線虫病の早期微害化や羽衣の松や老齢木の樹勢は回復が図られてきている。 また、「松林を守り、育て活かす仕組みづくり」として、より多くの地域の人々が、松林に関心を持ち、継続して保全活動に積極的にかかわり、三保松原の松林を守り、育て、活かし次世代に継承していくための拠点となる組織として令和元年6月に団体が設立された。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	県と静岡市が設置した「三保松原保全実行委員会」で決定された松林保全・活用方針に従い、団体は、市から松林保全業務のアウトソーシングとして事業を受注するとともに、市に対し、保全に関する技術提案や協働に関する技術的サポートを行う。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	静岡市三保松原文化創造センター（みほしるべ）は、三保において地域等との連携の窓口や活動支援等を担い、財団は実際に保全活動を行う保全活動団体・住民に対し、技術的対話や意見交換等を通じその活動を支援していく。財団は三保松原文化創造センター、保全活動団体・住民とともに三保松原の松林保全活動のプラットフォームの一端を担う。

4 事業概要

(単位：千円)

区分	事業名	事業概要	R4 決算	R5 予算
県委託	三保松原保全地域連携モデル確立事業	松原保全のための市民・行政など水平的連携モデルの試行的実施、松林保全管理システムの普及・活用を進めるための講習会等の実施	2,398	2,500
市町委託	三保松原保全業務委託	松原保全のためのマツ材線虫防除、老齢大木の樹勢回復、危険木対応、景観改善、森林管理、圃場管理、情報発信等の実施	25,838	27,150
自主事業	小冊子販売	三保松原の「自然の魅力」を紹介する冊子（三保松原コレクション）を刊行	18	50
合 計			28,254	29,700

5 事業成果指標

指標の名称（単位）	目標（上段）及び実績（下段）				目標値（年度）
	R2	R3	R4	評価	
マツ材線虫病被害木（本/ha） ※集計 6/1～翌年5/31	1本/ha以下 0.59	1本/ha以下 0.42	1本/ha以下 0.39	A	1本/ha以下 (R6)
市・県委託業務の執行率 (%：執行件数/発注件数)	100% 100%	100% 100%	100% 100%	A	100% (-)
()					()
()					()

※評価 … A：目標達成 B：目標未達成 C：目標未達成（乖離大）

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	予定されていた事業は全て執行することができた。 令和元年度に微増となったマツ材線虫病被害木が、令和2年度以降は微害化傾向を維持し、1本/ha以下の被害を維持できた。 被害が減少したのは、徹底した防除の成果と評価できる。	○	三保松原のマツ材線虫病の微害化傾向を維持している。 また、三保松原保全に関する業務を市と県から受託しており、執行率が100%であることなどから、事業目標値を達成している。

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	市から松林保全業務のアウトソーシングとして事業を受注・執行し、施工業者への技術講習会の開催、地元自治会やボランティアガイドに対して松原保全対策の説明など、保全技術の向上、市への技術提案や協働に関する技術的サポートを行うことができ、当団体に求められる役割は果たすことができた。 今後は、より効果的・効率的な実施を進めていく。	○	三保松原の松林保全業務の実務を担い、またそれによって得られたノウハウを施工業者や静岡市、ボランティア等へ還元するなど、三保松原の松林保全活動のプラットフォームとしての役割を果たしている。 富士山世界文化遺産の構成資産である三保松原の松林保全を適切・確実に進めていく上で必要な団体である。

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区分	R2 決算	R3 決算	R4 決算	評価	備考（特別な要因）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	▲ 2,571	3,349	2,985	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	▲ 2,571	3,349	2,985	A	
	公益目的事業会計	-				
	収益事業等会計	11,931	8,274	7,368		
	法人会計	▲ 14,502	▲ 4,925	▲ 4,383		
	剰余金	12,096	26,214	27,598	A	

※評価 … A：プラス B：特別な要因によるマイナス C：マイナス

区分	R2 決算	R3 決算	R4 決算	主な増減理由等	R5 予算	
資産の状況	資産	34,179	38,987	42,475		-
	流動資産	28,770	30,144	36,006	概算払いの仮受金の増	-
	固定資産	5,409	8,843	6,469	固定資産の残存価額の減	-
	負債	7,083	9,774	11,877		-
	流動負債	7,083	9,774	11,877	概算払いの仮受金の増	-
	固定負債	-	-	-		-
	正味財産/純資産	27,096	29,214	30,598		-
	基本財産/資本金	15,000	3,000	3,000		-
	剰余金等	12,096	26,214	27,598		-
	運用財産	-	-	-		-
収支の状況	事業収益 (a)	23,471	23,826	28,254	県及び市からの受託費の増	29,700
	うち県支出額	2,270	1,837	2,398		2,500
	(県支出額/事業収益)	(9.7%)	(7.7%)	(8.5%)		(8.4%)
	事業外収益 (b)	13,134	10,876	8,472	補助金及び負担金の減	14,000
	うち基本財産運用益	-	-	-		-
	特別収益 (c)	-	-	-		-
	うち基本金取崩額	-	-	-		-
	収入計 (d=a+b+c)	36,605	34,702	36,726		43,700
	事業費用 (e)	17,693	19,670	22,759	外注費用の増	22,647
	うち人件費	5,223	5,344	5,459		6,346
	(人件費/事業費用)	(29.5%)	(27.2%)	(24.%)		(28.%)
事業外費用 (f)	21,483	11,683	10,982		16,287	
特別損失 (g)	-	-	-		-	
支出計 (h=e+f+g)	39,176	31,353	33,741		38,934	
収支差 (d-h)	▲ 2,571	3,349	2,985		4,766	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

令和4年度の期末残高は約3,060万円あり、前年度と比較して約140万円増加した。利益は主に受託事業の執行によるもの。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

--

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	令和2年度に財団の事務所を東海大学静岡キャンパス内に移転し、新たに常勤の事務局長を配置した組織運営体制の強化や、樹木医との技術提携などによる発注体制の見直しを行ったことにより、令和4年度も計画通りに松原保全事業を実施することができた。 財団存続に必要な利益は出ており、執行上、収益上の問題はない。	○	経常損益は黒字となっており、経営の健全性が認められる。

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 （経営健全性に係るもの）	対応状況			
	団体記載		県所管課記載	
-				
-				
-				

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
①委託事業による松原保全の適確な実施。これを通じた財団と地域事業者の技術力の向上。 ②財団の研究開発能力、教育研修力の向上。 ③水平的協働による松原保全活動への支援。	水平的協働による保全活動が円滑に行われるように基盤作りを強化するとともに、松林保全の技術やノウハウを蓄積し地域住民や保全活動団体に対し継続的に支援していくことが求められる。

2 今年度の改善の取組

団体の取組（団体記載）	団体の取組に対する意見等（県所管課記載）
1業務執行体制の改善 事務局の技術力向上 ・樹木医との技術提携・研修等による専門知識・実践的技術の習得 ・内部腐朽診断の実施 ・圃場管理方法の調査研究 ・マツの生育に関する調査研究 ・東海大学との共同研究 2 マツ林保全に関する情報発信の強化 3 水平的協働による保全活動の支援	昨年度から引き続き、財団職員の技術力の向上や保全に関する研究・開発が予定されていること、また大学との共同研究を実施していることなどから、三保松原保全のプラットフォームとしての基盤強化が期待される。

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位：人、千円)

区分	R2	R3	R4	R5	備考（増減理由等）
常勤役員数	-	-	-	1	事務局長が理事兼務のため
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	-	-	-	-	
常勤職員数	4	4	4	3	理事兼務の事務局長は未計上
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	1	1	1	1	
県支出額	2,270	1,837	2,398	2,485	
補助金	-	-	-	-	
委託金	2,270	1,837	2,398	2,485	
その他	-	-	-	-	
県からの借入金	-	-	-	-	
県が債務保証等を付した債務残高	-	-	-	-	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額（当該年度は予算額）、借入金・債務残高は期末残高

2 点検評価（団体記載）

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	出資団体により役員が構成され、必要最低限の組織体制となっている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	-	常勤の県職役員なし
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	技術的支援として、必要最低限である1名を派遣

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

3 点検評価（県所管課記載）

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	三保松原の保全については静岡市と当団体が進め、県は技術的支援を行うこととなっており、技術職員の派遣は必要性が認められる。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	当団体は三保松原の保全について、公民各々の主体が水平的協働を継続的に実施していく為の重要な役割を担っているため、拠出金及び委託金を支出する必要性・有効性は認められる。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	-	-		
利用者アンケート	○	-	クセのある生き物コレクション写真展 (5/21～7/18)	①とても良い52%、良い39%、普通9%
利用者等意見交換会	○	-	三保松原の保全に向けた講習会 (10/11 12名 三保自治会長) 三保松原の保全に向けた講習及び意見交換会 (11/10 6名 ボランティアガイド)	・景観についての意見 ・クラストの原因や外来種の繁茂等の質疑
その他 ()	○	-	6/23評議員会 定時評議員会は、年1回毎事業年度終了後3ヶ月以内に開催する。 地元自治会連合会長、静岡経済同友会、静岡商工会議所から評議員を迎えている。	・令和3年度事業・決算報告について異議なし ・令和4年度事業計画・予算について異議なし

○：実施している／公表している -：実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

事務局の技術力向上として、静岡県森林・林業技術研究発表会での発表や他県の圃場（神奈川県茅ヶ崎市）の育苗状況の視察等を行った。また、東海大学との共同研究で、テキスト「三保松原」ドローンによる薬剤散布の検証について」を作成した。

財団のHPやInstagramで情報発信を行った。また、保全意識の醸成のために、三保松原のクセのある生き物コレクション写真展を実施した。